

# 「自然」「健康」「楽しさ」で生活を豊かにする「コトショップ」



## おもてなし経営のポイント

- ❖ ハーブとアロマテラピーを通じた「コトショップ」として生活を豊かに
- ❖ 日常会話から生まれるアイデアを実現する社内プロジェクト
- ❖ 原料をコミュニティトレードすることで、世界の地域産業に貢献

### 経営理念と企業文化

#### 「モノ消費」から「コト消費」にいち早く移行

日本人の消費行動は「モノ消費」から「コト消費」に移行したと言われて久しい。物を所有することに価値を感じるのではなく、消費を通して得られる満足感や充実感に価値を見出す人々が増えたのだ。

ハーブとアロマテラピー専門店を経営する株式会社生活の木は、その「コト消費」の提案に、いち早く取り組んだ企業である。元は洋食器やテーブルなどの「モノ」を販売してい

たが、先代社長がアメリカに行った際に、そこでヒッピー文化との出会いが大きな転機となり「陶光生活の木」はアロマ・ハーブを扱う店へと変化していく。これからは日本にも「自然志向」がキーワードになる時代がくるのではと思った。ハーブを楽しむことは、単なる物の流通ではなく、自然の香りを消費することであり、「モノ」の先にある「コト」の消費が見て取れた。現在では「自然」、「健康」、「楽しさ」をキーワードに、顧客の豊かな生活を追求している。生活の木のコンセプトに惹かれて入社を希望する人は多い。社員は、もともとファンとして利用していた人がほとんどで、身を持っ

て同社や商品の魅力を体験しているのが強みだ。「自然はだれもが好きなので、健康もだれもが必要とするもの、楽しい生活もだれもが求めるものです。ハーブは老若男女に貢献できる分野。そこが揺るがなかったからお客さまに支持をいただけたと思います」。入社20年目になるベテラン社員はこうに話す。ハーブを使用することによる「コト消費」の価値を早くから実感していたのだろう。



オフィス内の様子。ターゲットと一致して、女性が9割を占める職場だが、近年は男性客も増えているとのこと。



オフィス内のラウンジ。毎週水曜日の夕方からはアルコールもOK。仕事後にこの場に立ち寄り会話を弾ませる社員も多い。



店舗内で手づくりせっけんを体験できる。自分でつくる楽しさを知ることも「コト消費」の一つ。



店舗の様子。よい香りが漂う。多種多様なハーブ、アロマ商品が置かれており、スタッフは相応の商品知識が必要になる。



ガーナのシアバターはコミュニティトレードの一つ。西アフリカのサバンナで生産しており、保湿力がある。これは石鹸などの原料となる。

### 社員の意欲・能力向上

#### 向上心を持った大家族 挑戦者は拒まない

「セクショナリズム（部門間の壁）がなく、全員が一丸となって運営していく風土がある」と、代表取締役の重永忠氏は言う。正規、パート・アルバイトなどを合わせて700人を超える大所帯となっても、「私は諦めない。1,000人になっても2,000人になっても全員の名前を覚えたいし、どういった背景で働いているかを知りたい」と重永氏は語る。一人ひとりの誕生日に直筆の誕生日カードを送り、イントラネット上でコミュニケーションを図るのは日常的なことである。「大家族のような会社」で、全国117店舗を展開する。

チャレンジに対しても肯定的な風土がある。「向上心を持っている社員がどんどん伸びている」と、社員は話す。特徴的な仕組みに、「PFCプロ

ジェクト」がある。PFCとは「Project For Challenger」のこと。社内の雑談や飲み会の場など、ちょっとしたコミュニケーションから生まれるアイデアを活かすプロジェクトで、公募したアイデアをもとにメンバーを集め、実現に向かって活動する。2012年から始まったプロジェクトで、現在はiPhoneのアプリ作成や、「アロマルシェ（ワゴンカーによるハーブティーの移動販売）」の実現のために、10数人がプロジェクトに選ばれている。5年後、10年後に「あのプロジェクトのおかげでいまがある」と言えるように、種をまいているのだという。

### 地域・社会との関わり

#### 日本も世界も生活が豊かになるために

重永氏は「アロママーケットに留まっていたくない」と語る。ハーブを

「コト消費」することで、いままでにない新しい世界への応用ができると考えているのである。現在、行なっている取り組みに、「コミュニティトレード」がある。チュニジア、ガーナなど世界各国の地域コミュニティが小規模につくるアロマ原料を輸入し、日本でその魅力をアピールすることで、地域コミュニティの産業を支援しているのである。

今後は医療分野にも参入し、医学を補完するアロマの価値を伝えていきたいという。さらには既存のカルチャースクール以外に通信教育にも進出し、教材などのコンテンツを通して、より多くの人々が日常的にハーブやアロマを活用できる知識を提供したいと考えている。

幅広い可能性を秘めている生活の木。すべての活動は世界の生活を豊かにするために。その根幹は揺るがない。

### 会社概要

- ・法人名：株式会社生活の木
- ・代表者：重永 忠 代表取締役
- ・所在地：東京都渋谷区神宮前 6-3-8
- ・設立年月：1955年9月創業、1967年12月設立
- ・ホームページ：<http://www.treeoflife.co.jp/>

- ・事業内容：ハーブ・アロマテラピー専門製品の輸入・開発・製造・卸・小売（直営117店舗）他、スクール・旅行業・コンサルティング
- ・社員数：710名